

登録基幹技能者制度推進協議会

改善策検討し制度充実

育成目標、講習内容を調査

登録基幹技能者制度推進協議会（向井敏雄会長）の企画分科会は、講習や試験のあり方、目標育成数の算出方法を会員団体に調査し、課題を抽出することを決めた。登録基幹技能者制度を充実させるため、資格の取得者や更新者の能力担保の方法、試験の難易度について問題点や改善点を探り、制度の波及につながる考え。2014年1月までに回答を求め、同年2月にも開く分科会で調査結果をまとめ、制度改善の方策を決定していく。

技能者数や建設業許可数など、場ごとに直接推計する方法から推計する方法や、現場の「ドアパターン」に分類されている職長数から推計する方法、現るとし、こうした分類を参考に

にしなから適切な算出を会員団体に求めた。期間は16年度末までを短期、19年度末までを中期と設定し、それぞれ目標数を算出する。登録基幹技能者制度は08年から始まり、13年度は多くの団体が資格の更新期を迎えている。資格者の増加に向けては、新規の資格取得者の確保とともに有資格者の更新も重要なことから、算出方法や講習内容を改善して適切な育成

講習や試験のあり方については、資格取得時と更新時の講習や試験内容の課題を洗い出し、有資格者の能力担保に向けた方策を検討する。取得時の講習は、重視すべき科目や登録基幹技能者としてのマネジメント能力を向上させる講習内容、講師の選定方法などを調べる。試験の問題数や難易度、合格率の水準なども調査する。また、更新講習では、更新対象者が一定レベルの能力を

持つことを確認するために必要な講習内容を定めるほか、試験の難易度や合格率の水準に對する意見も求める。更新講習の受講率を向上させるためのインセンティブ（動機付け）の設定方法についても提案を募る。また、目標育成数の算出方法を改善に向け、08年度に設定した算出方法をもとに、資格保有者の退職や転職を考慮して再検討していくことを各団体に要請する。算出方法は、